

「蔦屋重三郎～江戸のメディア王と波乱万丈の生涯～」

2025年大河ドラマ「べらぼう」の主人公は江戸の出版人・蔦屋重三郎。現代では大型書店「TSUTAYA」の名称の由来にもなったといわれる名プロデューサーである。滝沢馬琴や山東京伝らの文筆家から、喜多川歌麿や葛飾北斎、そして東洲斎写楽ら有名絵師らを見出した「蔦重」。彼はどのようにして「江戸のメディア王」となったのかを時代背景とともに探る。さらに彼が世に広めた絵師や作家とその名作の数々に触れ、蔦重のすごさを改めて知る一冊に。

【企画内容】

<巻頭特集>大河ドラマ「べらぼう」紹介

横浜流星さん、森下佳子さんなど、関係者インタビュー

2025年大河ドラマで蔦重を演じる横浜流星さんを筆頭に、『おんな城主 直虎』に続いて二度目の大河の脚本担当となる森下佳子さんなどに撮影の裏側、そして本作の見どころをお聞きする。

<特集>「蔦重」が駆け抜けた江戸

日本最大の遊廓「吉原」から出発し、多くの名作を世に送り出した蔦屋重三郎(=蔦重)の生涯を時系列で追う。時代ごとに関わりのあるキーパーソンの紹介、ルポによるビジュアルの補足、吉原細見の見方などの小さなコラムで、蔦重や当時の江戸の文化をより深く知ることができる内容に。喜多川歌麿、東洲斎写楽ら人気絵師は作家や美術館の学芸員や専門家によるインタビューや寄稿を用いて、作品の深読みだけでなく蔦重との関係性まで踏み込んで考察したい。

第一章 吉原での成り上がり

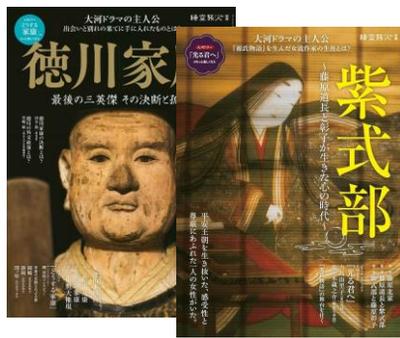
1750～ 吉原細見、遊女評判記、平賀源内
ルポ「蔦中始まりの地”吉原”など

第二章 軌道に乗る出版業と統制による挫折

1776～ 山東京伝らとの風刺的黄表紙の人気と幕府による統制
ルポ「喜多川歌麿と栃木」、寄稿「田沼意次と松平定信の時代」など

第三章 再起を図る浮世絵のパワー

1791～ 美人画や役者絵で再び活況に。
寄稿「どこまで分かっている?写楽の正体」など



※特集内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

スペース	掲載料金	サイズ
表4	1,800,000 (税込1,980,000)	269×200 (天地mm×左右mm)
表2見開き	2,500,000 (税込1,650,000)	285×420 (天地mm×左右mm)
表3	1,400,000 (税込1,540,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
目次対向	1,300,000 (税込1,430,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
4CIP	1,100,000 (税込1,210,000)	285×210 (天地mm×左右mm)

- 発売日 : 2025年1月6日(月)
- 発行形態 : 中綴じ/右開き
- 定価 : 1200円(税込)
- 発行発売 : 株式会社三栄
- オーダー締切 : 2024年12月9日(月)
- 校了日 : 2024年12月18日(水)

【お問合せ】株式会社三栄 第二営業企画局 Mail : koukoku@san-ei-corp.co.jp

～この企画に関するより詳しい内容・不明点は各担当者にご連絡下さい。～